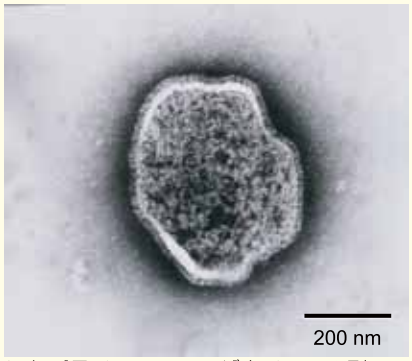
大阪市立環境科学研究所　第 120 号　平成 26 年 3 月

健康　環境　サイエンス

乳幼児は注意を！！
ヒトパラインフルエンザウイルス感染症

ヒトパラインフルエンザウイルス（HPIV）（写真）は、ヒトに感染すると、風邪様症状（発熱、咳、鼻汁）を引き起こすことがあります。インフルエンザという名前がついていますが、インフルエンザウイルスとはまったく別のウイルスです。1950 年代に発見されたウイルスで、１～４の血清型が報告されています。古くから知られていますが、臨床現場において実施可能な迅速病原体検出キットがないこと、積極的な調査がおこなわれていないことから国内における HPIV の検出、解析情報は多くありません。

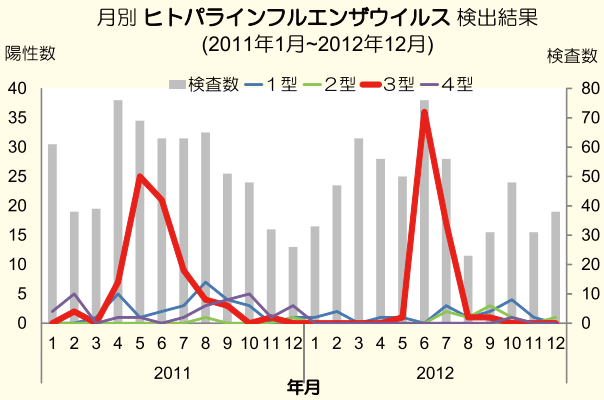


ヒトパラインフルエンザウイルス３型の電子顕微鏡写真
（大阪市立環境科学研究所撮影）

＊右下の黒い棒の長さは 200 ナノメートル
（1 ナノメートルは 100 万分の 1 ミリメートル）

3型が最多で、春～初夏に流行！！

当研究所における６歳未満の呼吸器感染症検体を対象とした調査の結果、HPIV のうち３型が最多の検出で、そのピークは春～初夏でした（図）。また、３型の検出数は、冬に流行する呼吸器感染症の病原体であるＲＳウイルスの検出数の６割近くにのぼりました。３型は、乳幼児にとって春～初夏の呼吸器感染症の主要病原体の１つです。



３型の感染により乳幼児は下気道炎（気管支炎、肺炎など）を引き起こすことがあり、入院加療が必要となる場合があります。また、３型は感染力が強く保育所などでの集団感染や院内感染の原因となることがあり、注意が必要です。現在、ワクチンはないことから、感染予防には、手洗いやうがい、マスク等による飛沫、接触感染予防が大切です。治療は、抗ウイルス薬がないため、症状を軽減させる対症療法が中心です。

（微生物保健グループ　改田　厚）